No Foreign Literature,
No Life.

painting by Ulala Imai / courtesy of Nonaka-Hill / photo by Tada

新潮クレスト・ブックス 2021-2022

［インタビュー］
オーシャン・ヴオン『地上で僕らはつかの間きらめく』
マギー・オファーレル『ハムネット』

ただいま翻訳中！ これから出るクレスト・ブックス
新潮クレスト・ブックス カタログ 1998-2021

◉「赤いモレスキンの手帳」プレゼント！ 詳しくは裏表紙へ→

SINCE 1998
CREST BOOKS
Shinchosha

photograph © Aram Boghosian

Ocean Vuong

1988年、ベトナム・ホーチミン市生まれ。幼少時に母や祖母とともにアメリカに移住。ニューヨーク市立大学ブルックリン校にて、詩人で小説家のベン・ラーナーのもとで学ぶ。現在はマサチューセッツ大学アマースト校で創作を教えている。詩作では早くから高く評価され、T. S. エリオット賞を受賞。

マサチューセッツの自宅にて、オーシャン・ヴオンと愛犬のトーフ

初の小説と母との別れ。

幼くしてベトナムからアメリカに渡り、
11歳まで文字が読めなかった少年は、長じて
数々の栄誉を手にする若き詩人となった。
そして2019年、初の長篇小説がベストセラーに。
母の急逝を経た作家が、自身と小説について語る。

オーシャン・ヴオン

interview with Ocean Vuong

マーティン・ウォルク 聞き手
木原善彦 翻訳
interview by Martin Wolk
translated by Kihara Yoshihiko

オーシャン・ヴオン
『地上で僕らはつかの間きらめく』
木原善彦訳
2021年8月刊行予定
photograph by Tsubota Mitsutenu

詩人であり小説家でもあるオーシャン・ヴオンに言わせると、二〇一九年は〝ジェットコースター〟のような一年だった。六月に刊行された小説デビュー作『地上で僕らはつかの間きらめく』は各紙誌で絶賛され、瞬く間にベストセラーとなった。

九月にはマッカーサー財団から〝天才〟助成金を受けることが決まり、少なくとも今後五年間は経済的な心配をする必要がなくなった。それから六週間もしないうちに、母のローズがステージ4の乳がんと診断され、間もなく五十一歳で亡くなった。

母の死は〝大きな裂傷〟であり、今もそれは癒えていない、とヴオンはインタビューで答えた。しかし他方で、二十五年間ネイルサロンで働いていた母に、作家として成功する姿を見てもらえたことを彼は喜んでいる。

「母はこの十年間、ようやく楽しく暮らせるようになっていました。僕も成功して、親孝行ができました。これができる人は多くありません」と彼は言う。「母の苦労がこうして実を結ぶのを見せることができたのは、僕にとって大変幸せなことです」

ベトナムの米農家に生まれ、二歳のときに難民としてアメリカにやって来たヴオンは、二〇一六年に『射出孔のある夜空』（「射出孔」とは銃弾が体を抜けていったあと）で文壇に登場した。この詩集はエミリー・ディキンソンと比較され、賞金五万ドルのホワイティング賞をはじめとして、詩の世界の最高の栄誉をいくつも獲得した。

『地上で僕らはつかの間きらめく』は主人公が母親に宛てて書いた手紙という形式の小説だが、その母親は英語をほとんど話せず、読むことはまったくできない。ヴオン自身の詩からタイトルを取ったこの小説は、〝白さ〟、男らしさ、暴力、そしてアメリカとベトナムとの苦難に満ちた関係といったテーマを扱っている。

この本は虚構（フィクション）と回想録の間、そして詩と散文の間にある境界線を曖昧にする。表現は叙情的で、言葉は削り込まれ、警句の集まりのようだ。本の中心近くに置かれた章は全体が、主人公の恋人を偲ぶ散文詩であり、ヴオンの憧れる作家の一人、アレン・ギンズバーグを彷彿とさせる感情の発露だ。

詩を書くのも散文を書くのもどちらも苦にならないと言うヴオンは、両者を「エネルギーの伝導体」の違いだと表現する。「僕はむしろ、同じエネルギーを違う伝導体に注ぎ込んだときに、結局何が伝わるかを見届けることに興味があります」

ヴオンはしばしばこういう言い回しをする。三十一歳の彼は深く文学を愛する作家で、マサチューセッツ大学アマースト校の准教授（キャノン）としてアメリカ文学の正典を研究している。そして自分に影響を与えた作家として、ジェイムズ・ボールドウィン、トニ・モリスン、ウィリアム・フォークナー、ジョン・アシュベリーなどを挙げる。

interview
photograph © Martina Salvi

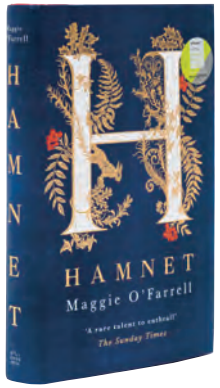
ウィリアムのいない シェイクスピア家物語。

コロナ禍がイギリスに蔓延しつつあった
2020年3月末に刊行されるや、権威ある
女性小説賞を受賞。注目の作家は、
400年前のパンデミックで息子を喪った
シェイクスピアの妻に、新しい人物像を吹き込んだ。

マギー・オファーレル

interview with Maggie O'Farrell

クレール・アーミッツテッド 聞き手
小竹由美子 翻訳
interview by Claire Armitstead
translated by Kotake Yumiko



"Hamnet" by Maggie O'Farrell
邦訳『ハムネット』 小竹由美子訳
2021年11月末刊行予定
photograph by Tsubota Mitsuteru

Maggie O'Farrell

1972年北アイルランド生まれ。デビュー作の After You'd Gone でベティ・トラスク賞を受賞。2010年、The Hand that First Held Mineでコスタ小説賞を受賞。本書は2020年に Women's Prize for Fictionと National Book Critics Circle Awardsを受賞し Hera Pictures により映像化進行中。

ヴオンはコネチカット州ハートフォードの労働者階級の暮らす地域で、母親と祖母と伯母に育てられた。ヴオンは十一歳になるまで文字を読めなかった。

驚くべきことに、彼は小説の着想の源として、一八五一年に出版されたハーマン・メルヴィルの名作『白鯨』を挙げる。実験的な形式、〝白さ〟、男らしさ、アメリカの〝明白な運命（マニフェスト・デスティニー）〟（米国の拡張主義は神に与えられた使命だとする考え方）についての思索がその理由だ。「『地上で僕らはつかの間きらめく』は、ベトナム系アメリカ人であることと同様に、〝白さ〟についての物語でもあります」とヴオンは言う。

そして彼はトレヴァーという登場人物を例に挙げる。トレヴァーはコネチカット州のたばこ農家の貧しい孫で、リトル・ドッグと呼ばれる語り手は彼と肉体関係を持つ。「僕はこの本で、特にニューイングランドの労働者階級における白人の男らしさとは何か、と真剣に考えました」とヴオンは言う。「ニューイングランドで育ち、そこで学校に通った僕は、男らしさに深く根ざした毒が、大人か子供かを問わず、周りの男たちにどれほど破壊的な影響を及ぼすかを目の当たりにしました」

戦争の暴力はこの小説の中心的なモチーフであり、すべての主要登場人物に影響を与えている。中でも世代を超えて大きな影響を持っているのがベトナム戦争だ。語り手の母と祖母はベトナム戦争を経験している。小説の最初の方に置かれた、胸が苦しくなる場面では、アカゲザルに対する野蛮な行為と、リトル・ドッグの祖母と母が緊迫した検問所で兵士のライフルと向き合う場面が重ねられる。ヴオンの言葉を借りるなら、そこでは「銃を後ろ盾にした通行許可と蛇腹式の柵とが二つの世界を区切っている」。

「僕はあの戦争にまつわる善と悪との物語には興味がありません。四百万以上の民間人と六万のアメリカ兵を失った戦争に勝者はいません」とヴオンは言う。「僕が興味を持ったのは、人間の暴力が残した遺産を調べ、そこにある無意味かつ不条理な原理を見つけることでした」

僕と戦争との間には興味深い緊張関係があります。だって、戦争がなければ僕はここにいないはずですから。

禅宗の仏教徒であり、自らを菜食主義（ビーガン）の平和主義者と称するヴオンは、この場面にはそうした自分のアイデンティティーの一部が反映されていると語り、自分が特定コミュニティーの〝案内役〟と決めつけられることにいらだちを感じている。

「多くの批評家は〝これは移民の物語だ〟とか、〝ゲイの物語だ〟とか、ひょっとすると〝労働者階級の話だ〟などと言うでしょう。でも、作家は単にそれだけの存在ではありません……人間が子供たちに爆弾を浴びせるのも不思議ではありません。だって僕たちはアカゲザルみたいな動物を拷問するような生物種なのですから」

小説の中でも、現実の人生と同じように、ベトナム人とアメリカ人の経験が長年の戦争とその余波によって密接に絡み合っている。ヴオンの祖父はアメリカの軍人であり、著者は戦争という暴力が自分――ベトナム系アメリカ人の詩人――を生み出した奇妙な力学について頻繁に考察を加える。ヴオンは公共放送網（PBS）のインタビューで、「僕と戦争との間には興味深い緊張関係があります。だって、戦争がなければ僕はここにいないはずですから」と語っている。「アメリカ人であるということの本当の意味は、その緊張関係を認めることなのです」

十一月に母親が亡くなったことは、彼にとって大変な試練だった。「悲しみはそれ自体が一つの世界です」と彼は言う。「いや、一つの国と言った方がいいかな。そして僕はその国を訪れたばかりの移民です。よその国に行ったときと同じように、そこ独自の法律やルール、物理規則を学ばなければなりませんし、一度に学べるものでもありません。だから、調子のよい日もあれば悪い日もあるのです」

"When everything changed: Novelist Ocean Vuong reflects on a year of intense highs and lows"
First published on The Los Angeles Times, Jan. 8, 2020.

マギー・オファーレルの八番目の小説は、過去のパンデミック――黒死病――を背景とした物語だ。この病は十六世紀のヨーロッパを荒廃させ、ウィリアム・シェイクスピアという田舎の若者が新しい歴史を作ろうとしていたロンドンの劇場群を定期的に閉鎖させていた。シェイクスピアはこの小説では名前を明かされないままで、十一歳の男の子の、愛情深いもののほとんど家にいない父親であり、その男の子の死が物語の中心となっている。かの劇作家にはハムネットという息子がいて、疫病の年の夏の盛り、『ハムレット』初上演の四年前に死んだ、というのは記録されている事柄である。男の子の死因が「ペスト」だったというのは、オファーレルによる知識に基づいた推測だ。

「フェミニストの報復の天使」と呼ばれる作家らしく、オファーレルはハムネットの母親、アン・ハサウェイの声を取り戻す。作者の言う、およそ五百年ものあいだ「ビックリ仰天するような悪口と露骨で臆面もない女性蔑視」にさらされてきた女性である。「彼女は無知な百姓あがりの売春婦で、天才少年を誑かして結婚し、夫は彼女が大嫌いだったので逃れるためにロンドンへ脱出しなくてはならなかった、とわたしたちは聞かされてきました。どこからこんな発想になるんでしょう？　どうしてみんな、自由奔放な男性芸術家像にこだわるあまり、彼女をこき下ろさなくちゃならないんですか？」

教区記録によると、アンは父親からはアグネ

photograph © Martina Salvi / Telegraph Media Group Limited 2011

スと呼ばれてかなりの持参金を遺贈されており、後年彼女は麦芽製造（醸造業のために麦を麦芽にする）事業を成功させている。「はい、恐らく彼女は文盲だったでしょう、十六世紀の牧羊農家の娘が、読み書き教育を受けているわけがないですよね？　無意味だったでしょうから。でも、読み書きできないからって愚かだということにはなりません」とオファーレルは言う。「もう一つ重要なのは、仕事人生終盤のシェイクスピアは並外れた成功を収めた実業家で、どこにでも住めたのに、ストラトフォードへ戻るという選択をしたということです」と彼女は付け加える。「彼はハムネットが死んだ翌年、妻と二人の娘のために広大な屋敷を購入しましたが、ほかにも畑やコテージを幾つも買って人に貸していました。どれも、結婚を後悔している男のやることとは私には思えません。彼女のことを考えるとものすごく腹が立って、読者に、彼女について知っていると思っていることはぜんぶ忘れて新しい解釈に心を開いてくださいって言いたかったんです。あの結婚を対等な関係のパートナーシップと考えてみてくださいって」

この解釈は、イギリス文学の最もよく知られた戯曲のいくつかについて興味深い疑問を提起する。『ハムレット』の狂ったオフィーリアにあんなにも生気を吹きこんでいる薬草について、この作品全体に数々のメタファーを提供している鷹匠術について、シェイクスピアはどうやってあれだけの知識を得たのだろう、とオファーレルは考えた。この小説では、こうした知識はアグネスから教わったものだと推測している。彼女は、賢明にも、落ち着きのない年下の夫に二つの生活を送らせておく女性である、片方は彼女の理解を超えたものであるにもかかわらず。

どうしてみんな、自由奔放な男性芸術家像にこだわるあまり、彼女をこき下ろさなくちゃならないんですか？

アグネスのじつに興味深い、馴染みのない世界を構築するのに必要な実践的リサーチは、チョウゲンボウを飛ばせるのはどんな気分なのか体験してみることから、エリザベス朝の薬草を種から育てること、植物から十六世紀の母親が病気の子どもに与えたようなチンキ剤や万能薬を作るレッスンを受けることにまで及んだ。

また、オックスフォード英語辞典と照合する骨の折れる作業も必要だった。「頭のなかでprivy（プリヴィー）（奥の、内々の、属する）セリフと呼んでいるものがあったんです。プリヴィーなんて言葉とかエリザベス朝っぽい会話はぜったい使わないつもりでした」と彼女は言う。

だが、この小説で燃え上がる激しい母の愛については、リサーチの必要はなかった。二〇一七年刊行の回想録『I Am, I Am, I Am』のなかで、オファーレルは娘の一人が極度のアレルギーに悩んだときのことを綴っている。「子どもが、うちの娘もそうでしたが、まさに中世さながら一日二十四時間苦しむ（皮膚炎で）なんて、親にとっては絶体絶命の窮地です」と彼女は話す。「娘を助けたければ逆さ吊りになれと言われたら、そうしていたでしょう」代わりに、従来の治療法に失望した彼女は、天然バターと薬草で、アグネス・ハサウェイも褒めてくれそうな鎮痛効果のあるローションを作った。彼女は今でも年に四回まとめて作っている。「作るのが好きなんです。我が子のために問題を解決してやりたいというのは、母親にまさに本来的に備わった衝動です。わたしは編み物も絵を描くことも、手を動かすことは何もできませんが、これはできるんです」

小説の不吉な雰囲気の漂う一節では、ペストが地球を移動する様が描かれる、アレクサンドリアのノミのたかった猿からストラトフォードの裁縫師の店へ、そこでハムネットの双子の妹ジュディスが、ベネチアンビーズの詰め物から感染する。書いている時点では、イギリスの小さな町にある一軒家という狭苦しい舞台装置から小説を外へ開こうという意図による叙述だった。だが、最近の状況のおかげで、作者にとっても読者にとっても、強く喚起されるもののあるエピソードとなっている。今なお黒死病については強い民間伝承的記憶が残っていると作者は指摘する。その記憶は多くのヨーロッパの町々の風景に刻み込まれている――わけてもエジンバラでは、オファーレルの子どもたちは疫病の墓穴（ブレイグ・ピット）と呼ばれる共同墓地の上に築かれた小山群を自転車で走りまわっていた。

「このパンデミック体験のはじめのころ、わたしたちは皆、黒死病のことを思い返していました」と彼女は語る。そうした歴史的に重要な出来事を、想像力を広げ共感を込めて照らし出すのは、フィクションの任務の一環である。「わたしたちがどれほど恵まれているか忘れてはなりません、この現代の世界には、人工呼吸器や病院があり、勤勉な医療従事者たちがいるんですから。それに比べて彼らにあったものといえば、たぶんミルクで煮た玉ねぎと干したヒキガエルくらいのものですからね」

"Shakespearean sisterhood:
Maggie O'Farrell on Hamnet"
First published on The Guardian, Sep. 12, 2020.

ただいま翻訳中！

今秋以降に刊行を予定している注目の作品を、
それぞれの翻訳者の方々にご紹介いただきました。
1990年生まれの新鋭、マリアンヌ・クローニンのデビュー作や
アリ・スミスの話題の四部作、第二弾などが刊行されます。

photograph by Tsubota Mitsuteru

※タイトルはすべて仮題です。

『野生の若者——山小屋日誌』

パオロ・コニェッティ
Il ragazzo selvatico—Quaderno di montagna by Paolo Cognetti
関口英子
text by Sekiguchi Eiko

都会での暮らしに疲れ、創作の源泉の枯渇した作家が、標高二千メートルにある山小屋に籠り、孤独と静寂のなかで自らの苦悩と素手で向き合った再生の記録。あらゆる属性から自由になり、持ってきた数冊の本を友として暮らすうちに、眠っていた五感が研ぎ澄まされ、森の生き物たちとの対話が生まれる。切り立った岩場で作家と対峙する老アイベックス、歌が気になって巣穴から顔を出すアルプスマーモット、個性豊かな樹木……。コニェッティが得意とする雄大な自然の描写はもとより、先人たちの文章から思索を深めていく過程や朴訥な山男たちとの交流、奔放な愛犬との出会いといったエピソードのひとつひとつが、私たちの心を山へと誘う。

コニェッティが「第二の処女作」と呼ぶ本書は、それまでの作風から脱皮し、名著『帰れない山』を生むに至る執筆の舞台裏を知るうえでも興味が尽きない。

（二〇二二年春刊行予定）

『光を灯す男たち』

エマ・ストーネクス
The Lamplighters by Emma Stonex
小川高義
text by Ogawa Takayoshi

補給船が島の灯台へ行ったら、駐在するはずの三人が消えていた。イギリス史上の謎の事件を踏まえつつ、時代と場所を変えてフィクション化した作品。まるでミステリーのように始まって、そのように楽しませてくれるのだが、あとで犯人がわかっておしまい、という単純な終わり方はしない。事件から二十年後に、ある作家（はたして誰なのか）が遺族にインタビューして謎に迫ろうとするうちに、灯台守として生きた三人と、その家族をめぐる人間模様が浮かんでくる。それこそが重要。もともと編集者だった著者の本名によるデビュー作は、冷気がぴんと張ったような文章も魅力である。これは訳者にとっては詩のような難物だが、だから引き受けたくなったとも言える。ようし、やってやろうじゃないの、という気にさせられた。暑苦しい仕事部屋にいて、気持ちだけは冬の灯台に飛んでいる。

（二〇二二年春刊行予定）

『冬』

アリ・スミス
Winter by Ali Smith
木原善彦
text by Kihara Yoshihiko

不思議な構成の『両方になる』で大きな注目を集めたアリ・スミス。しかしその原稿の提出は締め切りを大幅に過ぎていた。そこで彼女は「次は入稿をわざと限界まで遅らせる」という方針を立てた。テーマは「四季」。

その結果、EU離脱をめぐる騒動の中で書かれた四部作一作目『秋』は、執筆時の英国を覆う空気を見事にとらえると同時に、百一歳の老人を主人公とすることで壮大な時間軸も具えていた。

第二作『冬』では舞台ががらりと変わる。冒頭に登場するのは元実業家のソフィア。物語の中心は三十歳くらいのその息子。彼はクリスマスに母に紹介する予定だった恋人と、直前に大喧嘩をしてしまう。そこで街で見つけた若い女に声をかけ、恋人役を演じてもらうことにするが……というお話。とにかく会話が知的で楽しい。

四部作の今後にも、乞うご期待。

（二〇二二年十月刊行予定）

『ある犬の飼い主の一日』

サンダー・コラールト
Uit het leven van een hond by Sander Kollaard
長山さき
text by Nagayama Saki

看護師のヘンクは離婚し、アムステルダム郊外に愛犬と暮らしている。冴えない中年男と思いきや、読書家でユーモアがあり、自分なりの人生哲学をもつ魅力的な人。ある日の散歩中、暑さに体調を崩した老犬に水を飲ませてくれた同年代の女性に惹かれる。彼女もヘンクを絵本のような表情をした人、もっとその絵本を読んでみたいと感じたことを彼は知らない。恋をしたようだと打ち明ける頼りない叔父を、仲良しの十代の姪が励ます。不器用なヘンクは行動を起こせるのか……。

コロナ禍の昨年、オランダで最も重要なリブリス文学賞を受賞。「目立たない男についてのとくべつな本。著者は人生を堪えやすくする軽妙さについて、深みのある感動的な小説を書いた」という選評を裏切らない。男女両者の細やかな心情が描かれ、歳を重ねても人は地味に輝きつづけることを伝えてくれる。

（二〇二二年夏刊行予定）

『レニーとマーゴで100歳』

マリアンヌ・クローニン
The One Hundred Years of Lenni and Margot by Marianne Cronin
村松潔
text by Muramatsu Kiyoshi

人はだれでも死ぬ。そんなことはわかっている、とあなたは言うだろう。けれども、それは嘘だ。コロナ禍が全世界にひろがっているいまでさえ、ほとんどの人はまさか自分がもうすぐ死ぬかもしれないとは思っていない。

ある病院の終末期病棟。アートクラスで出会った17歳のレニーと83歳のマーゴは、自分たちがもうすぐ確実に死ぬことを知っている。

それでも、たがいの瞳のなかに強く惹かれる光を認め、残り少ない時間のなかで、かけがえのない存在になる。そして、自分たちの合計100年の人生を絵に描いて残そうというとてつもない計画を立てるのだ。余命が秒読み段階になっているふたりは、それぞれ自分たちの人生の里程標になった場面を絵にしながら、それにまつわる物語を語り合う。

そんなふたりのやりとりがユーモアにあふれた、爽やかな語り口になるなどと想像できるだろうか？　この少女と出会ったことで、自分の死はふつうよりずっと楽しいものになった、と83歳のマーゴは言う。

（二〇二二年一月刊行予定）

新潮クレスト・ブックスがお届けする101タイトルをご紹介します。
（価格は税込です）

Shincho Crest Books Catalog 1998–2021

林檎の木の下で
アリス・マンロー
小竹由美子訳

スコットランドの寒村から新大陸カナダへ——。三世紀の時を貫く作家自身の一族の物語。落ちついた声、天才的な筆捌き。12の自伝的短篇。

2640円
590058-8

イラクサ
アリス・マンロー
小竹由美子訳

一瞬が永遠に変わるさま。長い年月を見通すまなざし。長篇小説を凝縮したかのような味わいの、「短篇の女王」による九つの物語。

2640円
590053-3

世界の果ての ビートルズ
ミカエル・ニエミ
岩本正恵訳

笑えるほど最果ての村で、僕は育った。凍てつく川。薄明かりの森。そして手づくりの僕のギター！　スウェーデンの傑作長篇小説。

2090円
590052-6

停電の夜に
ジュンパ・ラヒリ
小川高義訳

ろうそくの灯りの下、秘密の話を——。ピュリツァー賞ほか独占！インド系女性作家による驚異のデビュー短篇集。もはや古典的名作。

2090円
590019-9

朗読者
ベルンハルト・シュリンク
松永美穂訳

十五歳の少年ミヒャエルが経験した切ない初恋。母親のような年の女性ハンナを失踪させた秘密とは——。衝撃の世界的ベストセラー。

1980円
590018-2

ハイウェイとゴミ溜め
ジュノ・ディアス
江口研一訳

『オスカー・ワオの短く凄まじい人生』の著者による伝説的デビュー作。全米最優秀短篇に選出された「イスラエル」ほか全10篇。

2090円
590004-5

ペット・サウンズ
ジム・フジーリ
村上春樹訳

恋愛への憧れ、父との確執、麻薬、肥満……。ビーチ・ボーイズの最高傑作『ペット・サウンズ』は、壮絶な戦いの記録でもあった。

1760円
590064-9

土曜日
イアン・マキューアン
小山太一訳

ロンドン、午前四時。未明の空に火を噴く飛行機。テロか？　それとも？　名匠の優美極まる筆致で描かれる、脳外科医の不穏な一日。

2420円
590063-2

千年の祈り
イーユン・リー
篠森ゆりこ訳

長い祈りに支えられた父娘の縁。人生の黄昏にある男女の情愛……。オコナー賞、ヘミングウェイ賞ほか総なめの驚異のデビュー短篇集。

2200円
590060-1

通訳ダニエル・シュタイン 上・下
リュドミラ・ウリツカヤ
前田和泉訳

ゲシュタポでナチスの通訳をしながらユダヤ人脱走計画を成功させた男。後にカトリック神父となりイスラエルに渡るその激動の生涯。

上 2200円
下 2420円
590077-9,78-6

記憶に残っていること
アリス・マンロー他
堀江敏幸編

世界最高の短篇小説をこの一冊に。マンロー、トレヴァー、ラヒリ、マクラウド、イーユン・リー……創刊から10年間の全短篇集から厳選。

2090円
590070-0

見知らぬ場所
ジュンパ・ラヒリ
小川高義訳

父と母の、子供たちの、恋人たちの歳月。『停電の夜に』以来九年ぶり、世界待望の最新短篇集。フランク・オコナー国際短篇賞受賞！

2530円
590068-7

ソーネチカ
リュドミラ・ウリツカヤ
沼野恭子訳

本の虫で、容貌のぱっとしないソーネチカ。最愛の夫の秘密を知ったとき彼女は……。神の恩寵に包まれた女性の静謐な一生の物語。

1760円
590033-5

ウォーターランド
グレアム・スウィフト
真野泰訳

土を踏みしめていたはずの足元に、ひたひたと寄せる水の記憶——。ブッカー賞作家によるもっとも危険なもっとも愛すべき最高傑作。

3190円
590029-8

パリ左岸のピアノ工房
T・E・カーハート
村松潔訳

パリの小さな工房で、若き職人が魔法のように再生する名器の数々……。眠っていた音楽とピアノへの愛が甦る傑作ノンフィクション。

2200円
590027-4

いちばんここに似合う人
ミランダ・ジュライ
岸本佐知子訳

孤独な魂たちが束の間放つ生の火花を、切なく鮮やかに写し取った十六の物語。映画監督としても活躍する著者のオコナー賞受賞作。

2090円
590085-4

サラの鍵
タチアナ・ド・ロネ
高見浩訳

パリの女性記者と、ナチに連行された少女。六十年の時を越え、二つの人生が交錯する——累計三百万部のベストセラー。映画化原作。

2530円
590083-0

初夜
イアン・マキューアン
村松潔訳

ずっと二人で歩いていけたかもしれない。あの夜の出来事さえなければ。遠い日の愛の記憶を克明かつ繊細に描く、異色の恋愛小説。

1870円
590079-3

その名にちなんで
ジュンパ・ラヒリ
小川高義訳

長く口にせずにきた思い。愛しい人を遠く焦がれる切なさ。名手ラヒリが精緻に描く人生の機微。ふかぶかと胸にしみる待望の初長篇。

2420円
590040-3

冬の犬
アリステア・マクラウド
中野恵津子訳

カナダ東端の島で、犬、馬、鷲ら動物とともに、祖先の声に耳を澄ませながら人生の時を刻む人々。生の厳しさと美しさを湛えた8篇。

2090円
590037-3

シェル・コレクター
アンソニー・ドーア
岩本正恵訳

孤島で貝を拾い、静かに暮らす盲目の老貝類学者を襲った奇妙な騒動を描く表題作ほか、O・ヘンリー賞受賞作を含む鮮やかな全8篇。

1980円
590035-9

女が嘘をつくとき
リュドミラ・ウリツカヤ
沼野恭子訳

夏の別荘で、波瀾万丈の生い立ちを語るアイリーン。ところがその話はほとんど嘘で……。嘘をつく女たちの哀しくも微笑ましい人生。

1980円
590095-3

残念な日々
ディミトリ・フェルフルスト
長山さき訳

貧しく、下品で、誇り高い。のんだくれの父一族との少年時代。心をつかんで離さない、ベルギーの俊英による自伝的連作短篇集！

2090円
590094-6

オスカー・ワオの短く凄まじい人生
ジュノ・ディアス
都甲幸治・久保尚美訳

オタク青年オスカーの悲恋の陰には、一族が背負った呪いがあった。全米批評家協会賞・ピュリツァー賞をダブル受賞した傑作長篇。

2640円
590089-2

素数の音楽
マーカス・デュ・ソートイ
冨永星訳

神秘的な謎に満ちた数、素数。その不思議な美と今も続く天才たちの挑戦とは。小川洋子さん絶賛のスリリングなノンフィクション！

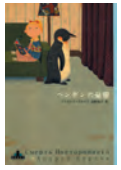
2640円
590049-6

彼方なる歌に耳を澄ませよ
アリステア・マクラウド
中野恵津子訳

18世紀末、スコットランドからカナダ東端の島に渡った赤毛の男がいた——。カナダの「静かな巨人」が描く、愛すべき一族の物語。

2420円
590045-8

ペンギンの憂鬱
アンドレイ・クルコフ
沼野恭子訳



憂鬱症のペンギンと暮らす小説家ヴィクトル。新聞の死亡記事を書く仕事をきっかけに、身辺に不可解な出来事が次々に起こって……。

2200円
590041-0

ヴォルテール、ただいま参上!
ハンス＝ヨアヒム・シュートリヒ
松永美穂訳

尊敬と反発、女性関係に金銭トラブル。ヴォルテールとフリードリヒ大王の知られざる素顔を描く、笑いと驚きの新しい歴史小説。

1760円
590117-2

突然ノックの音が
エトガル・ケレット
母袋夏生訳

しゃべる金魚。神様の本音。ままならぬセックス。そして突然のテロ――。イスラエルの人気作家の掌篇集。オコナー賞最終候補作。

2090円
590116-5

風の丘
カルミネ・アバーテ
関口英子訳

古代遺跡の夢。ファシズムとの戦い。一族の秘密。イタリア最南端、風の強い丘に暮らす家族四代の物語。カンピエッロ賞受賞。

2310円
590115-8

べつの言葉で
ジュンパ・ラヒリ
中嶋浩郎訳

「私にとってイタリア語は救いだった」――夫と息子たちとともにローマに移住した作家が綴ったイタリア語による初エッセイ。

1760円
590120-2

あなたを選んでくれるもの
ミランダ・ジュライ
岸本佐知子訳

映画の脚本執筆に行き詰まった著者は、フリーペーパーに売買広告を出す人々を訪ねる。カラー写真満載、心を打つインタビュー集。

2530円
590119-6

子供時代
リュドミラ・ウリツカヤ
絵 ウラジーミル・リュバロフ
沼野恭子訳

中庭のあるアパートに住む子供たちが出会った奇跡。「キャベツの奇跡」「折り紙の勝利」等、祝福されたかけがえのない瞬間に心打たれる6篇。

1980円
590118-9

夜、僕らは輪になって歩く
ダニエル・アラルコン
藤井光訳

内戦終結後に再結成された伝説の小劇団。十数年ぶりの公演旅行は、ある嘘をきっかけに思わぬ方向へ。ペルー系作家による話題作。

2420円
590123-3

未成年
イアン・マキューアン
村松潔訳

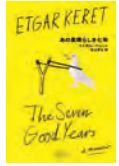
輸血を拒む少年と彼を救おうとする女性裁判官。運命と信仰をめぐる激しい葛藤、恋にも似た思い。ブッカー賞作家による傑作長篇。

2090円
590122-6

文学会議
セサル・アイラ
柳原孝敦訳

小説家でマッド・サイエンティストの〈私〉は文学会議に出席する文豪のクローン作製を企むが。アルゼンチンの奇才が放つ衝撃作!

1870円
590121-9



あの素晴らしき七年
エトガル・ケレット
秋元孝文訳

愛しい息子の誕生からホロコーストを生き延びた父の死までの、悲嘆と哄笑と祈りに満ちた七年。イスラエル作家の自伝的エッセイ集。

1870円
590126-4

屋根裏の仏さま
ジュリー・オオツカ
岩本正恵・小竹由美子訳

20世紀初頭、「写真花嫁」としてアメリカに渡った少女たち。そのささやきが圧倒的な声になって立ち上がる全米図書賞候補作。

1870円
590125-7

陽気なお葬式
リュドミラ・ウリツカヤ
奈倉有里訳

自分のお葬式が愛で満たされるように願う亡命ロシア人画家アーリクの最期の贈り物とは――不思議な祝祭感と幸福感が溢れる物語。

1980円
590124-0

すべての見えない光
アンソニー・ドーア
藤井光訳

ドイツの若い技術兵と、フランスの盲目の少女の心を繋いだのは、ラジオから流れる懐かしい声だった――。ピュリツァー賞受賞作。

2970円
590129-5

誰もいないホテルで
ペーター・シュタム
松永美穂訳

森の中の宿で。リノベーションされた工場跡地で。音楽フェスの夜に。心をとらえ、運命を動かす瞬間。スイス人作家による短篇集。

1870円
590128-8

煉瓦を運ぶ
アレクサンダー・マクラウド
小竹由美子訳

その後の人生を一変させる決定的瞬間を、瑞々しい筆致で描き出す。故アリステア・マクラウドの息子による鮮烈なデビュー短篇集。

2090円
590127-1

夏の嘘
ベルンハルト・シュリンク
松永美穂訳

避暑地で出会った男女。癌を患う大学教授。作家とその夫。小さな嘘をきっかけに秘められた思いが溢れ出す。著者十年ぶりの短篇集。

2200円
590100-4

終わりの感覚
ジュリアン・バーンズ
土屋政雄訳

精緻、深遠、洗練。四度目の候補にしてブッカー賞受賞。英国を代表する作家の、時間と記憶をめぐる優美でサスペンスフルな中篇。

1870円
590099-1

手紙
ミハイル・シーシキン
奈倉有里訳

戦争に行った若者と残された少女。ふたりは百年の時を隔ててめぐり会う。死を超えて、時空を超えて綴られた、瑞々しい愛の手紙。

2640円
590097-7

美しい子ども
ジュンパ・ラヒリ他
松家仁之編

シリーズ創刊15周年を記念して、全101篇から選んだ傑作短篇アンソロジー。ラヒリ、ミランダ・ジュライ、マンロー、シュリンクほか。

2090円
590104-2

こうしてお前は彼女にフラれる
ジュノ・ディアス
都甲幸治・久保尚美訳

どうしていつも、うまくいかないのか？　浮気男ユニオールとたくさんの女たちが繰り広げる、おかしくも切ない九つの愛の物語。

2090円
590103-5

アンネ・フランクについて語るときに僕たちの語ること
ネイサン・イングランダー
小竹由美子訳

コミカルな語りに深い倫理性。人間の普遍を描きだす啓示のような物語。フランク・オコナー国際短篇賞受賞作。

2090円
590101-1

遁走状態
ブライアン・エヴンソン
柴田元幸訳

前妻と前々妻に追われる元夫。勝手に喋る舌を止められない男。明晰に語られる十九の悪夢。ホラーも純文学も超える驚異の短篇集。

2310円
590108-0

ディア・ライフ
アリス・マンロー
小竹由美子訳

2013年ノーベル文学賞を受賞した短篇小説家が、透徹した眼差しと眩いほどの名人技で描きだす平凡な人々の途方もない人生の深淵。

2530円
590106-6

いにしえの光
ジョン・バンヴィル
村松潔訳

姿を消した人気女優と後を追う老俳優の、奇妙な逃避行。いくつかの曖昧な記憶が不意に新しい像を結ぶ。ブッカー賞作家の新境地。

2310円
590105-9

甘美なる作戦
イアン・マキューアン
村松潔訳

MI5の美人スパイと若き小説家。二人の愛は幻だったのか？　自伝的で小説論的。ブッカー賞作家による野心あふれる恋愛小説。

2530円
590111-0

低地
ジュンパ・ラヒリ
小川高義訳

インド民主化運動のなか殺された弟。その身重の妻をアメリカに連れ帰った兄。愛と失意が織り成す波乱の家族史。待望の長篇小説。

2750円
590110-3

大いなる不満
セス・フリード
藤井光訳

なぜか毎年繰り返される、死者続出のピクニック。平均寿命一億分の四秒の微小生物。不条理と笑いに満ちた圧倒的デビュー短篇集。

1980円
590109-7

善き女の愛
アリス・マンロー
小竹由美子訳

誰にも覚えのある家族間の出来事を見事なドラマとして描きだす、マンローの金字塔的短篇集。1998年度全米批評家協会賞受賞作。

2640円
590114-1

マリアが語り遺したこと
コルム・トビーン
栩木伸明訳

母マリアによるもう一つのイエス伝。「聖母」ではなく人の子の母としてのマリアが語る、美しく果敢な独白小説。ブッカー賞候補作。

1760円
590113-4

光の子供
エリック・フォトリノ
吉田洋之訳

私の母は誰なのか――。パリを舞台に、映画と現実を往来するある男の愛の彷徨。ル・モンド紙元編集長によるフェミナ賞受賞作。

1980円
590112-7

憂鬱な10か月
イアン・マキューアン
村松潔訳

胎内から窺い知る、まだ見ぬ人間達の世界。愛と裏切り、そして犯罪の気配。英国の名匠による、苦い笑いに満ちた極上の名篇。

1980 円
590147-9

知の果てへの旅
マーカス・デュ・ソートイ
冨永星訳

宇宙に果てはあるのか。時間とは、意識とは？はたして科学は全てを知りえるのか。『素数の音楽』の著者による知の限界への挑戦。

2970 円
590146-2

マザリング・サンデー
グレアム・スウィフト
真野泰訳

メイドに許された年に一度の里帰りの日曜日、ジェーンの人生は自由の色に輝き始める。ブッカー賞作家が熟達の筆で描く珠玉の物語。

1870 円
590145-5

最初の悪い男
ミランダ・ジュライ
岸本佐知子訳

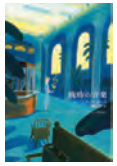
愛するベイビー、いつになったらまたあなたをこの腕に抱けるの？どこまでも奇妙でなにより切実な愛に導かれた、感動の初長篇。

2420 円
590150-9

ガルヴェイアスの犬
ジョゼ・ルイス・ペイショット
木下眞穂訳

空から巨大な物体が落ちてきて、村はすっかり変わってしまった。権威あるオセアノス賞を受賞。奇想天外なポルトガルの傑作長篇。

2090 円
590149-3



戦時の音楽
レベッカ・マカーイ
藤井光訳

ベスト・アメリカン・ショート・ストーリーズに4年連続選出。戦争と音楽、幻想と歴史の間をたゆたう、短篇の名手による17篇。

2200 円
590148-6

帰れない山
パオロ・コニェッティ
関口英子訳

山がすべてを教えてくれた。アルプス山麓を舞台に、本当の居場所を求めて彷徨う二人の葛藤と友情を描く、国際的ベストセラー。

2255 円
590153-0

両方になる
アリ・スミス
木原善彦訳

時空を超えて響きあう二つの物語は、虚構と事実の境界を塗り替え、再読時に全く違う姿を見せる。楽しさと驚きに満ちた長篇小説。

2640 円
590152-3

変わったタイプ
トム・ハンクス
小川高義訳

世界的名優は、短篇小説のおそるべき名手でもあった！　人生のひとコマを鮮やかに切り取る、優しさとユーモアにあふれた17の物語。

2640 円
590151-6

波
ソナーリ・デラニヤガラ
佐藤澄子訳

わたしの人生にはすべてがあった。あの波が来るまでは――2004年、突然の津波で家族を失った経済学者が綴る、絶望と再生の手記。

2200 円
590156-1

ミッテランの帽子
アントワーヌ・ローラン
吉田洋之訳

その帽子を手にした日から、冴えない人生は美しく輝きはじめる。1980年代のパリを舞台にした、大人のための幸福なおとぎ話。

2090 円
590155-4

ピアノ・レッスン
アリス・マンロー
小竹由美子訳

後のノーベル賞作家は、デビュー時にすでに「短篇の女王」だった。人生の陰翳を描き読者を魅了する名匠の原風景が詰まった作品集。

2420 円
590154-7

わたしのいるところ
ジュンパ・ラヒリ
中嶋浩郎訳

ローマと思しき町に暮らす「わたし」の、なじみの場所にちりばめられた孤独と彼女の旅立ちの物語。イタリア語による初めての長篇。

1870 円
590159-2

ある一生
ローベルト・ゼーターラー
浅井晶子訳

アルプスの山とともに、20世紀を生きた名もなき男の生涯がなぜこんなにも胸に迫るのか。現代オーストリア文学の恩寵に満ちた物語。

1870 円
590158-5

トリック
エマヌエル・ベルクマン
浅井晶子訳

プラハに生まれナチス政権下を生き抜いた老マジシャンと、魔法を信じるLAの少年。それぞれの艱難を抱えた出会いが奇跡を起こす。

2750 円
590157-8

ウインドアイ
ブライアン・エヴンソン
柴田元幸訳

妹はどこへ消えたのか。それとも、妹などいなかったのか？　滑稽でいてひどく切実な、不安と恐怖。『遁走状態』に続く待望の短篇集。

2200 円
590132-5

ジュリエット
アリス・マンロー
小竹由美子訳

母と娘、そのまた娘。届かない互いの思いを諦観とともに描くアルモドバル監督映画化の連作など、ビターなマンロー全開の傑作短篇集。

2640 円
590131-8

四人の交差点
トンミ・キンヌネン
古市真由美訳

異なる時代を生きた四人の喜びと痛みの記憶が、やがて一つの像を結ぶ。フィンランドで記録的ベストセラーとなった、ある家族の物語。

2420 円
590130-1

ふたつの海のあいだで
カルミネ・アバーテ
関口英子訳

ある日、姿を消した祖父。《いちじくの館》再建の夢はいかに――。イタリアの人気作家が描く、土地に深く根ざした強靭な物語。

2090 円
590135-6

ビリー・リンの永遠の一日
ベン・ファウンテン
上岡伸雄訳

イラクから帰還し、戦意高揚のショーに駆り出された兵士。過酷な戦場と愚かな狂騒の、その途方もない隔絶。全米批評家協会賞受賞作。

2530 円
590134-9

本を読むひと
アリス・フェルネ
デュランテクスト冽子訳

パリ郊外の荒れ地に暮らす文字を知らないジプシーの大家族と、彼らに本を読む歓びをもたらした図書館員。フランスのロングセラー！

2090 円
590133-2

階段を下りる女
ベルンハルト・シュリンク
松永美穂訳

名画とともに異国に消えた謎の女。消そうとして消せなかった彼女の過去とは？ 一枚の絵をめぐるドイツのベストセラー作家の新境地。

2090 円
590139-4

五月の雪
クセニヤ・メルニク
小川高義訳

仄暗い歴史を背負う極寒の町マガダン。この土地で暮らす人々の哀しみと喜び。米国注目のロシア系移民作家による、鮮烈な連作短篇集。

2200 円
590137-0

人生の段階
ジュリアン・バーンズ
土屋政雄訳

悲しみの回帰線を超えて――誰かの死は、その存在が消えることまでは意味しない。公私ともに最高の伴侶を亡くした作家の思索と回想。

1760 円
590136-3

運命と復讐
ローレン・グロフ
光野多恵子訳

それは結婚という名の壮大な悲喜劇。巧みなプロットと古典劇の文学性を併せ持ち、オバマ前大統領も愛読した圧巻の大河恋愛小説！

2970 円
590141-7

おじいさんに聞いた話
トーン・テレヘン
長山さき訳

ハッピーエンドのお話はないの？ ロシア生れの祖父が語る悲哀に満ちた人生の物語。『ハリネズミの願い』の作家による愛すべき掌篇集。

1980 円
590140-0

オープン・シティ
テジュ・コール
小磯洋光訳

マンハッタンを日ごと彷徨する若き精神科医。時折よみがえる遠い国の記憶。数々の賞に輝いたナイジェリア系作家によるデビュー長篇。

2090 円
590138-7

昏い水
マーガレット・ドラブル
武藤浩史訳

70代後半を迎えたドラブルが、同世代の枯れない女たち男たちの老いの姿をいきいきと描く、まさに英国的苦みの効いた長篇小説。

2530 円
590144-8

ファミリー・ライフ
アキール・シャルマ
小野正嗣訳

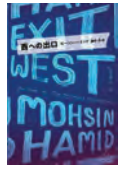
家族の暮らしを一変させた、あの夏の事故。意識が戻らぬ兄、疲弊する両親、悲しみの中で成長する弟。愛情と祈りに満ちた家族小説。

1980 円
590143-1

ノーラ・ウェブスター
コルム・トビーン
栩木伸明訳

夫を亡くし、21年ぶりに勤めに出たノーラ。慎ましく不器用な主婦が、生きる歓びを見出してゆく姿を母に重ねて描く自伝的長篇。

2640 円
590142-4



西への出口
モーシン・ハミッド
藤井光訳

1980円
590162-2

故郷の戦火を逃れるため、国境を越える「扉」を抜けた若い男女。世界中の移民達の風景も交え、新天地を目指す人生を鮮烈に描く。

靴ひも
ドメニコ・スタルノーネ
関口英子訳

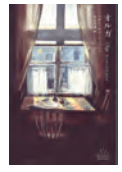
2090円
590161-5

40年前の別居騒動を乗り越えたはずの老夫婦の留守宅が襲われ、猫が消えた。普通の家庭に潜む怖しさを見事に描いた衝撃の家族小説。

ケミストリー
ウェイク・ワン
小竹由美子訳

2200円
590160-8

どうしてうまくいかないの？ リケジョのこじれた思いが行きつく先は。ユニークな語りが胸を打つ、愛と家族と人生のものがたり。



オルガ
ペルンハルト・シュリンク
松永美穂訳

2200円
590165-3

北の果てに消えた恋人、言えなかった秘密。激動の二十世紀ドイツを生きた女性オルガのひたむきな人生に心揺さぶられる最新長篇。

秋
アリ・スミス
木原善彦訳

2200円
590164-6

およそ百歳の眠り続ける老人。その人生はEU離脱に揺れるイギリスの戦後史に重なり——奇想に満ちたポスト・ブレグジット小説。

友だち
シーグリッド・ヌーネス
村松潔訳

2200円
590163-9

男友だちを喪った女性作家と主を亡くした老犬。残された時間の中で、狭いアパートにふたつの孤独が寄り添う。全米図書賞受賞作。

海と山のオムレツ
カルミネ・アバーテ
関口英子訳

2090円
590168-4

食べることはその土地と生きること。イタリア最南端、カラブリア州出身の作家が、絶品郷土料理と家族の記憶を綴る自伝的短篇集。

サブリナとコリーナ
カリ・ファハルド＝アンスタイン
小竹由美子訳

2310円
590167-7

コロラド州デンバー、ヒスパニック系住区のやるせない日常の中で逞しく生きる女たちを描き、全米図書賞最終候補となった話題作。

アコーディオン弾きの息子
ベルナルド・アチャガ
金子奈美訳

3300円
590166-0

幼なじみはなぜ故郷を捨て、アメリカで没したのか。遺された回想録から浮かび上がる波乱の人生を描く、バスク語現代文学の傑作。

恋するアダム
イアン・マキューアン
村松潔訳

2750円
590171-4

冴えない男と秘密を抱えた美女の間に割り込むアンドロイド。奇妙な三角関係のゆくえは？人とAIの文明的衝突を笑い飛ばす傑作。

赤いモレスキンの女
アントワーヌ・ローラン
吉田洋之訳

1980円
590170-7

男はバッグの落とし主に恋をした。手がかりは赤いモレスキンの手帳とモディアノのサイン本。パリが舞台の大人のおとぎ話第二弾。

レンブラントの身震い
マーカス・デュ・ソートイ
冨永星訳

2750円
590169-1

ゲーム、絵画、音楽——人間固有とされてきた創造する能力。しかしAIの進化がその定説を覆す。創造性の本質を数学者が探求する。

アントワーヌ・ローラン
『赤いモレスキンの女』
大ヒット記念企画
2022年版
〈赤いモレスキンの手帳〉を
プレゼント！

詳しくはこちらをご覧ください。

https://www.shinchosha.co.jp/crest/23th_fair/present.html

地上で僕らはつかの間きらめく
オーシャン・ヴオン
木原善彦訳

2420円
590173-8
【最新刊】

ベトナム生まれの詩人が文字を読めない母への手紙に書いた、母たちと僕の苦難、生きる歓び。全米で話題沸騰の鮮烈なデビュー長篇。

身内のよんどころない事情により
ペーター・テリン
長山さき訳

2255円
590172-1

会合をドタキャンする為の小さな嘘が、作家の人生を激しく狂わせてゆく。ベルギー発のミステリアスな長篇小説。AKO文学賞受賞。